

経済史シラバスと若干の注意

2014年10月9日
小野塚 知 二

I シラバス

講義の要項・目的

経済史は現在(いま)を理解するための有力な方法の一つです。現在の制度、慣行、政策、市場、組織などがいかにして形成され、変容してきたのか、つまり、いまの経済の起源と来歴を知ることと、いまとは異なる経済・社会と比較して現在の経済・社会を相対化すること、これら二点がこの講義の基本的な眼目です。

われわれの生きる現在は近現代の末端に連なっていますから、現在を社会科学的に知ろうとする際に重要なことは、近現代の社会・経済の特質を、その前史や成立過程とともに理解することです。本講義のⅠでは経済史学の課題と基本的な方法を概観し、Ⅱでは前近代(中世)西洋の社会・経済との比較から近現代の特質を論じます。Ⅲでは前近代から近代への長い移行期(近世ないし初期近代)を、Ⅳでは近代の市場経済・資本主義・産業社会・市民社会の構造と動態を、それぞれ欧米諸地域に即して解明します。Ⅴ(担当岡崎)では日本経済を中心に、近世・近代経済の制度・組織的な基盤とその機能について説明します。

なお、現代(≒20世紀)については経済学部専門科目2の現代西洋経済史、現代日本経済史などで詳細に講ずるので、本講義では近代までしか—あるいは、近代と一括できる限りでの現代しか—扱いません。

授業計画

I 導入

- 1 経済史とは何か
- 2 効率性と分業

II 前近代

- 1 総説：前近代と近現代
- 2 共同体と身分制
- 3 前近代社会の持続可能性と停滞
- 4 前近代の市場、貨幣、資本

III 近世

- 1 総説：前近代から近代への移行
- 2 市場経済と資本主義
- 3 近世の市場と経済活動
- 4 近世の経済と国家 —絶対王制と重商主義—
- 5 近世の経済規範

IV 近代

- 1 産業革命
- 2 資本主義の経済制度
- 3 国家と経済
- 4 自然と経済
- 5 家と経済
- 6 資本主義の世界体制
- 7 近代と現代

V 日本経済における近世・近代

- 1・2 世界の中の日本経済 —比較と関係—
- 3・4 財政・金融
- 5・6 人口・家族・労働供給

教科書

なし

参考文献

金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史』名古屋大学出版会。このほかの文献については講義開始後にリストをウェブ上に公開し、また、必要に応じて随時案内します。

その他

12月まで小野塚がⅠ～Ⅳを、1月は谷本がⅤを担当します。11月27日午後は総長選挙ですので、全学的に休講となります。

Ⅱ 配布物

履修上の注意、レポートの案内、その他、講義内容に直接関わらない文書はすべて、ウェブ上(http://www.onozukat.e.u-tokyo.ac.jp/educational_j.html)に随時公開します(紙ベースでは配布しません)ので、適宜、参照・印刷してください。宿題と講義評価(諸君の記入後に回収する文書)は紙で配付します。

Ⅲ 質問と相談

質問は講義中随時受け付けますが、時間をとらずに簡潔に答えられること(たとえば私の言い誤りや書き間違いなど)に限ってください。その他の質問や相談は講義終了後受け付けます。ただし、講義後に時間の切迫した所用があるときは失礼することもありうるので、以下の方法を用意しておきます。

(1) 私の研究室(本郷の経済学研究科棟9階910)を訪ねていただくのが、教養学部の諸君にご足労いただくのは面倒で申し訳ありませんが、文献等もその場で案内できるので最も適切な方法だと思います。他に用事がない限り本郷には月曜から土曜まで大概来ていますが、講義・会議・その他の用務で研究室にいないことも多く、いても多用で対応できないこともあるので、e-mail(onozukat@e.u-tokyo.ac.jp)あるいは郵便(〒113-0033 文京区本郷7-3-1 東京大学大学院経済学研究科・経済学部 小野塚知二宛)で事前に連絡して日時を決めておいた方が確実でしょう。

(2) 質問・相談は郵便かe-mailでも受け付けます。すぐに返事を書けない場合もあるし、直に会うのと違って何度かやりとりをしないと埒のあかないこともしばしばなので、これは決して手軽な方法ではありません。

(3) 多くの諸君に共通に関係しそうな重要な質疑応答はホームページ上に公開します。

Ⅳ その他の注意点

私語(および寝言・鼾・歯軋りなど騒音を発する行為)は厳に慎んでください。静かな居眠りや内職が目立たないようにする限り、特に咎めませんが、むろん居眠りや内職を推奨するつもりはありません。また、講義中の出入りや携帯電話なども目障り耳障りなので慎んでください。

このほか、経済学部カリキュラムにおける経済史の位置、参考文献と講義の関係、単位取得の条件、成績評価の方法、任意のレポート、高校の日本史・世界史との関係、講義評価等々については、後日、あらためて案内します。